

様式第 2 号(第 7 条関係)

会 議 結 果 報 告 書

令和 7 年 1 月 2 3 日

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 2 回舞鶴市発達支援体制検討会議	
種 別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開 催 日 時	令和 6 年 1 2 月 2 5 日（水） 1 4 時～ 1 6 時	
開 催 場 所	舞鶴市中総合会館 4 階 4 0 1 会議室	
出 席 者	小谷裕実、平進、内藤信雄、中森裕、仲川真広、西邑公子事務局（瀬野勝久、尾橋淳子、飯田美和、守屋和行、鎌部晶子、真下知子、村上梨歩、尾上あかり、長沢凜、植田葵、内藤恵美）	
議 題	(1) 第 1 回会議の振り返り (2) 今後の発達支援・家族支援体制のあり方について ・ 5 歳児健康診査、幼児教室、教育相談について (3) 意見交換	
公 開 の 区 分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍 聴 者 数	0 名	
審 議 結 果 及 主 な 意 見 等	別紙参照	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備 考		

担 当 課	舞鶴市健康・こども部 こどもまんなか室 こども家庭しあわせ課 TEL (0 7 7 3) 6 6 - 1 0 0 8
-------	---

第2回 舞鶴市発達支援体制検討会議 報告書（要約版）

日時：令和6年12月25日14時～16時

出席者：別紙参照

場所：中総合会館4階 401会議室

1. 第1回会議の振り返り ― 現行の発達支援体制の課題 ―

《共通のテーマ》つなげる・つながるしくみづくり 人材（育成・世代交代・不足）専門性の確保

課題1.多様な発達特性に対応できる支援体制へと見直しが必要

課題2.最適な学びの環境を準備できるよう見直しが必要

課題3.支援をつなげる/つながるしくみの再構築が必要

課題4.人材不足・スキルアップが必要

2. 今後の議論のテーマ

《目標》『子どもの豊かな育ちを支える環境づくり』～安心を届ける・自分らしく生きる・支えあい～
新たに何かを作るというより、今の体制の強みを生かして方法や仕組みを見直すことで、課題の解決と機能を図りたいと考えている。

第1回 『支援をつなげるしくみの強化』

発達支援ファイルの積極的活用・ライフステージを見通した支援パスの作成

第2回 『安心して就学できるよう就学前発達支援システムの再構築』

にじいろ園巡回と5歳児健康診査の融合・就学前の幼児教室の実施・教育相談

第3回 『多様な発達特性に対応できるよう支援機能の強化』

療育体制の整理・児童発達支援センター設置の検討

*課題4の持続可能な人材確保及び専門性の強化については、各回でご意見を出していただく。

第4回 『まとめ ― 舞鶴市の発達支援体制について ―』

3. 本日の議論～安心して就学できるよう就学前発達支援システムの再構築について～

◇ 現行のシステムの課題

- ・3歳児健診から就学時健診までの間、こどもの困り感に気づく機会が2年ほど空いてしまっている
- ・にじいろ巡回と教育相談は、教育部門と福祉部門が関わり、こどもの様子を双方が共通理解できる仕組みにしているが、双方向の繋がりが不十分である。また、保健部門と教育部門のつながりが薄い。

◇ 新たな就学前発達支援システム

- ・本市の強みであるにじいろ園巡回を活用して、新たに導入する5歳児健診から入学までの支援について保健・福祉・教育部門が自然につながるしくみとなるよう見直しを図る。年中の早い時期からこどもの様子や支援内容、配慮事項などを共有し、支援方針等についても共通認識したうえで各機関において適切な支援ができるしくみに変えていきたい。

< 5歳児健診 >

- ◇ 目的：社会性や調和的な行動を確認し、必要時適切な支援を行うことで課題となる行動の改善や社

会生活への適応がスムーズとなること、さらに保護者の不安の軽減を図り安心して就学を迎える

- ✧ 対象：実施年度に満5歳になる幼児（年中児）（就学までに十分な準備期間を確保するため）
- ✧ 方法：園巡回方式を検討（未就園児については検討中）
- ✧ 内容：問診、医師の診察、集団の様子観察
- ✧ 5歳児健診の流れ（案）

対象者全員に問診表記入（保護者と担任）、医師の診察を実施（スクリーニング）



必要者に発達検査、多職種で園での集団の様子観察/カンファレンスを実施 （にじいろ個別支援システムとドッキング）
--



保護者に結果返し（フォロー不要・管理中・園支援・要支援）

<幼児教室について 現なかよしルームの見直し>

- ✧ なかよしルームを5歳児健診後のフォロー教室としても実施していきたい。
変更点としては、4歳児よりも5歳児の回数を、就学後に通級指導教室等へ移行することも踏まえて、10回～15回と多く設定している。

<教育相談>

- ✧ 現行の課題
教育相談の件数が増加、子どもの発達特性が多様化しており、教育相談体制の検討が必要
教育相談の当日に保護者面談と発達検査を行っており、当日保護者に結果返ししている
- ✧ 教育相談体制の見直し（案）
 - ① 集団行動観察の導入（にじいろ園巡回とドッキング）
 - ② 当日の結果返しをやめ、多職種でカンファレンスを行った後に結果返しを実施
 - ③ 教育支援委員会に専門家の配置を検討

【意見交換】

- ✧ 5歳児健診
 - ・全国でどのくらいの割合で実施されているのか。
→以前調べた結果によると、約15%の自治体で実施している。今回、国から補助金が出ることになり、5歳児健診の体制を整備していく方針となっている。
 - ・問診表はどのようなものを作成する予定か。問診表の対象は全員であり、担任用もあるみたいだがあまり負担にならないものにしてほしい。
→問診票（保護者・担任用）の内容については、はい・いいえ等で簡単に回答できるチェック方式で検討中。にじいろ巡回のように文章で記入いただく項目はいれない予定。
 - ・5歳児健診の流れについて、園で実施する形になっていたが具体的にどのように実施していくのか。
→まず、年中児全員を対象に問診・診察でスクリーニングをして対象者を絞り、その後絞った対象者に対して発達検査やにじいろ巡回と同じように集団行動の観察を実施していきたい。

- ・要支援の方への結果返しの方法について、他市で課題があると聞いている。
- ・医師が専門分野外であった場合、医師の育成・専門性育成も課題である。
- ・5歳児健診後の支援体制の構築に約3年かかった。
- ・子育てに関する相談について、ワンストップ窓口を設置してはどうか

例) 大津市では、子どもや保護者の様々な悩みを相談できるワンストップ型の教育相談窓口として教育支援センターを設置。教育相談、特別支援教育の相談、不登校など。

→すべてのこどもの部署を中総合会館に集める案が出てきているが、今後の予定や詳細は未定。

◇ 移行支援について

- ・就学前から継続して親支援ができる体制の構築が必要（SW や SSW の人材などを活用してはどうか）
 - ・他自治体でペアレントトレーニングを実施されているところがあるが、親支援として有用ではないか。
- 現在、市ではペアトレの要素を取り入れながら親支援をしている。
- ・保護者や子どもが主体的に様々な機関とつながれる仕組みが必要。
 - ・発達支援ファイルについては、現在内容やどこで渡すか等検討中。園の負担を軽減するためにも、個別の支援計画を挟む形で作成できればと思っている。

◇ 教育相談

- ・専門職に医師等も加わるとさらによいのではないか
- ・教育支援委員会と教育相談は実務が繋がっており、連携し合いながら運営ができている。